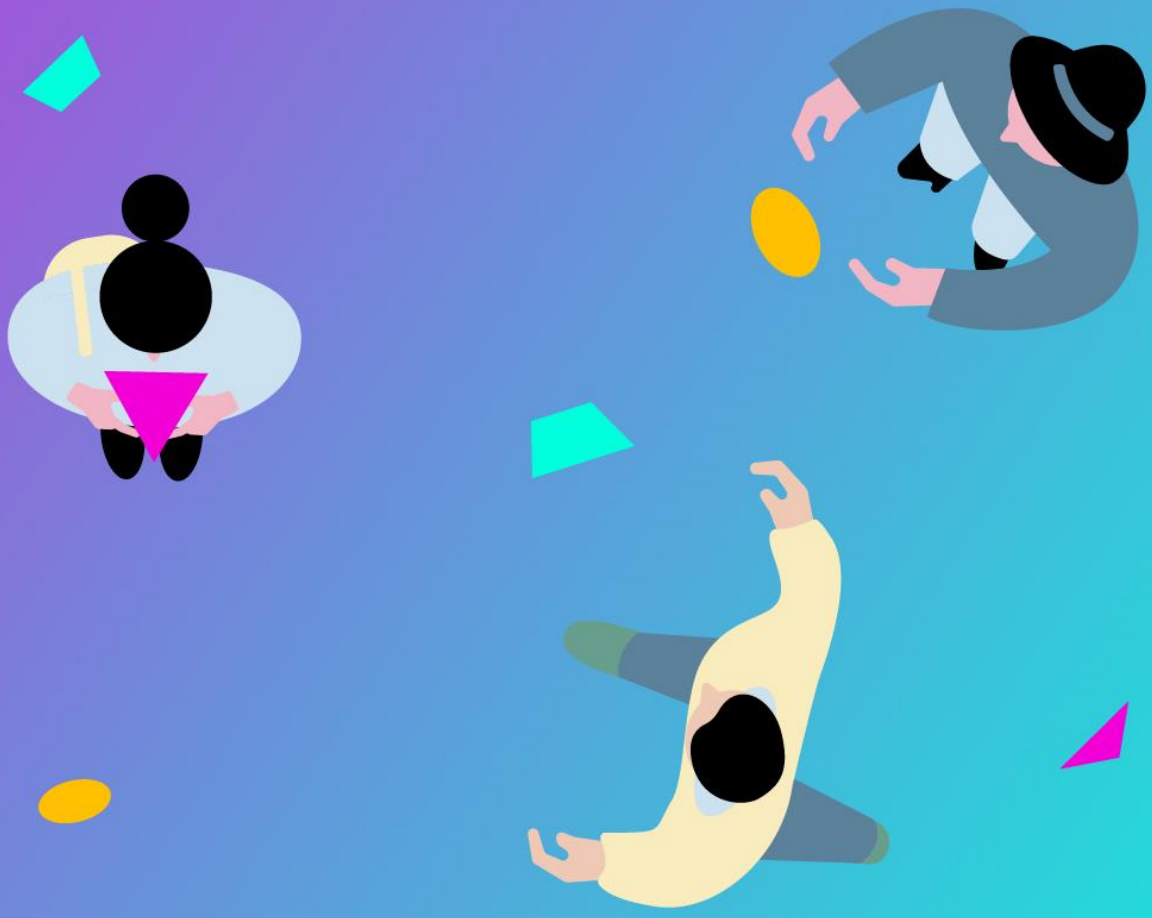
運域

自分に合った生活スタイルを手にするために
周辺環境（域）を上手に運用する新しい移住生活者の出現

生活者“動”察2022

The Dynamics of Chinese People

博報堂生活綜研（上海）



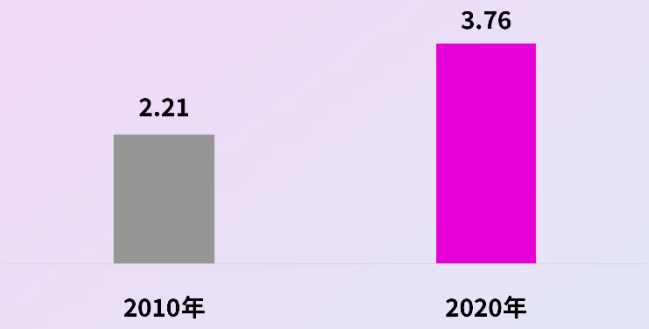
移住生活者に注目する背景

国全体の人口がピークにさしかかり、既に人口減少に転じる都市も出てきた中国。一方で流入人口が増え続けている都市も存在します。国家統計局の第7回全国国勢調査の結果では非戸籍人口が3.76億人存在し、10年前より約170%増加しているという実態も明らかになりました（図表1)。

私たちが調査の中で、今後10年間で別の都市に移住する意向の有無を質問してみたところ、36%の人が移住意向があると回答。移住するつもりはないという28%を上回る結果となりました（図表２）。

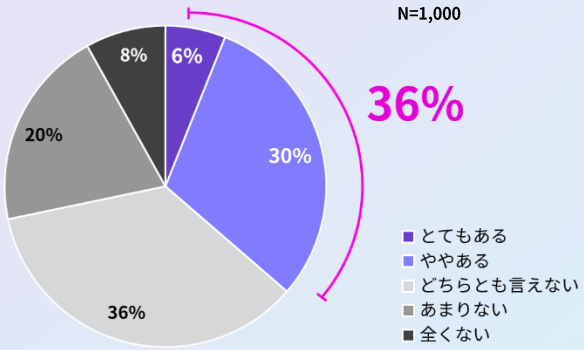
今回、博報堂生活綜研(上海)は、この増え続けていく都市間移住生活者に注目し、近い将来の中国生活者の暮らす場所と暮らし方の変化について、独自の調査や専門家との意見交換を通じて考察してみました。

図表１ 非戸籍人口の変化（億人）



(中国国家統計局「第7回全国国勢調査」)

図表2 今後10年間の別都市への移住意向



(博報堂生活綜研(上海)　「価値観/生活スタイル調査2022」)

調査/研究概要

生活者定量調査（計6000サンプル）

「生活者の移住の現状と将来に関する調査」（N=5000）と「価値観/生活スタイル調査」（N=1000）、2つの定量調査を通じて、中国生活者の移住の実態、暮らし方、家族、仕事に関する価値観、および将来に対する考え方を把握。

移住生活者インタビュー（30名）

過去2都市以上の移住を経験、または1年以内に複数都市に居住経験を持つ家庭年収100万元以内の生活者に対する1対1のデプスインタビューを実施。
移住のきっかけや移住前後の暮らしの変化などを詳細に把握。

専門家インタビュー（７名）

社会学、人口学、都市開発など幅広い領域の専門家に研究内容を共有し、意見交換をさせて頂くことで、研究内容の精度の向上、視点の多角化を図った。

200件以上のトレンド/未来予測情報収集

今後の暮らしの変化の予測を行うため、現在のトレンドと将来予測情報を多角的に収集し、一部は調査対象者に提示して、実現可能性や生活への影響有無に対する見解を聴取。

NET EASE社ビッグデータ解析

网易云商

NET EASE社と協働し、消費行動データを活用し、仏山、アモイ、鄭州、昆明の4都市に新たに移住してきた人と、その都市に定住している人の消費行動の違いを分析。

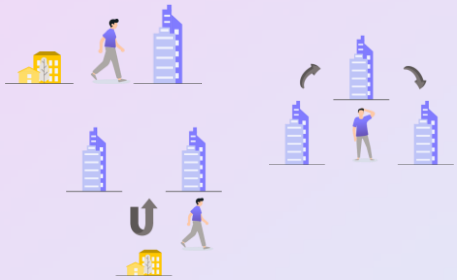
第一財経・新一線都市研究所データの活用

第一財经 YICAI | 新一线 THE RISING LUB

同社が保有する都市の経済発展状況、人口動態、都市ごとの生活特徴に関するデータを仮説構築、発表内容の充実に活用。

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

都市間移住の「タイプ」と「暮らす都市の選択基準」の変化

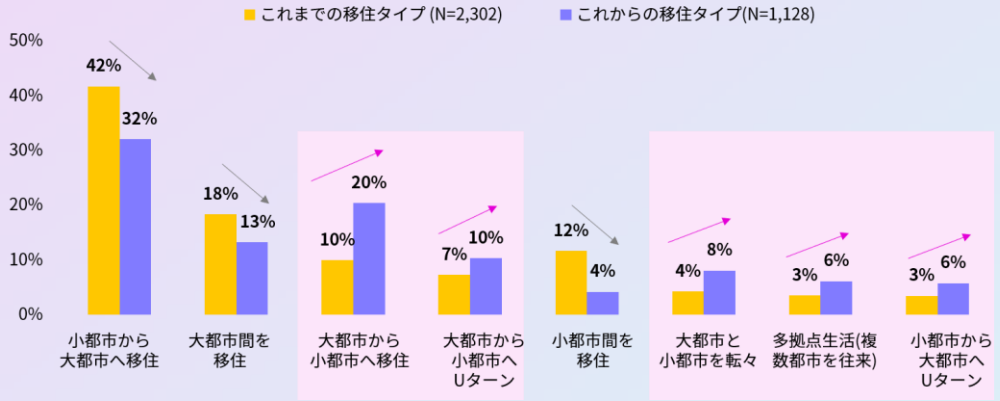


都市間移住をする生活者は、もちろん以前から存在しました。
今回私たちが注目したのは、都市間移住の「タイプ」や「暮らす都市の選択基準」の変化です。

私たちが移住経験者に、あなたのこれまでの移住はどのような「タイプ」に近かったのかを聞いてみたところ、「小都市から大都市へ移住」が42%、「大都市間を移住」が18%と、基本的に大都市を目指す移住が中心であったことが確認されました。

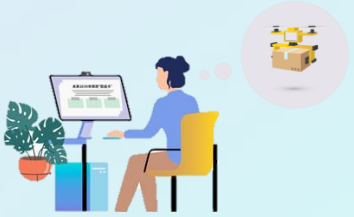
けれども、生活者に次の10年でどのような「タイプ」の移住を検討しているのかを訊ねたところ、小都市から大都市へという移住を想定する人は10pt減少し、逆に大都市から小都市に向かいたいという人が倍増。
大都市と小都市を不規則に転々としたい、多拠点生活を始めたいと考える人も見られました。
将来、都市間移住の「タイプ」の多様化が予想される結果です（図表３）。

図表3　これまでの移住タイプとこれからの移住タイプの比較



(博報堂生活綜研(上海)　「生活者の移住の現状と将来に関する調査」2022年)

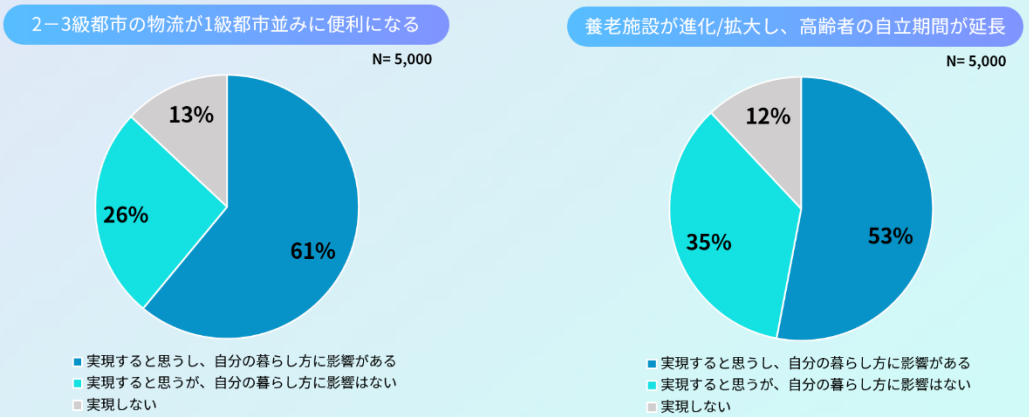
このように大都市への一極集中というこれまでの移住とは異なる移住を想定する人が増えた背景として、多くの生活者が地方都市のインフラ発展等を中心とした社会変化を予見していることが挙げられます。



本研究の中で私たちは約20個の未来予測仮説を提示し、その実現可能性や生活への影響の有無を生活者がどう見るのかを検証してみました。

その結果を見ると、2-3級都市の生活利便性が1級都市並みに高まる将来や、介護施設が拡充し、親の介護負荷が低減する未来が現実になり、自分の生活に大きく影響を与えると見る生活者が多く存在することが分かりました（図表４）。

図表４



(博報堂生活綜研(上海)「生活者の移住の現状と将来に関する調査」2022年)

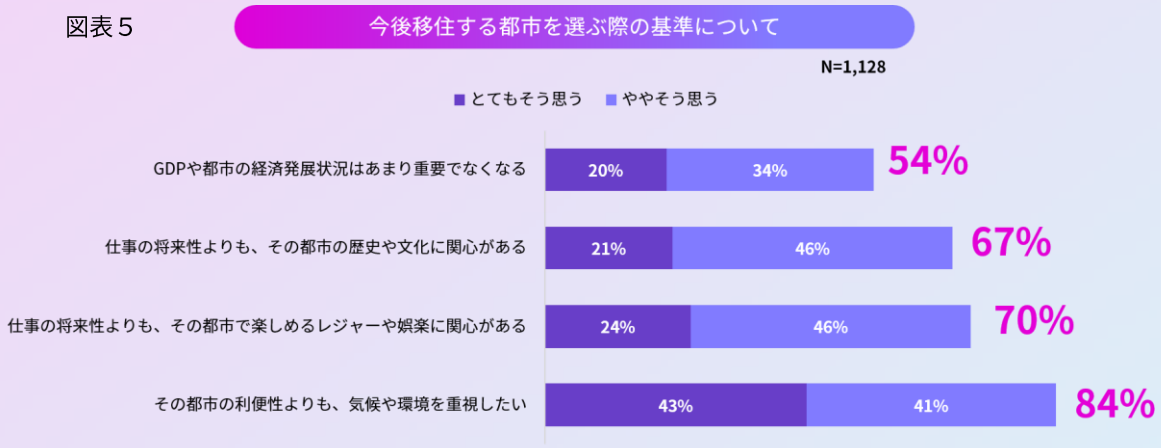
©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

加えて、オンラインで働く人も増加傾向ですし、フリーランスなど、より自由度の高い働き方をする人も増えています。
インフラ、医療/介護、教育環境、仕事や働き方など、これまで暮らす場所を選ぶ際の制約要素となってきたポイントが、今後どんどん変化していきます。

これまでの移住は、インフラが整い、教育や就業機会の多い大都市に向かう、介護を必要とする親が残る地元に戻る、といった経済面、家族関係を考慮した移住が多くありました。
しかし生活者自身も予見しているように、暮らす場所の選択の制約となっていた要素が変化してくると、生活者はより自由に、自分が望む暮らし方に合った都市を選択できるようになっていきます。

実際に私たちの調査結果を見ると、GDPなど都市の経済的発展度合いを勘案して住む都市を選択するよりも、文化や歴史があるか、レジャーや娯楽を楽しめそうか、気候や環境が良いかを重視して暮らす都市を選びたいという人が多くなりました（図表５）。このように暮らす都市選択の基準から変わってきている傾向があるのです。

図表５



(博報堂生活綜研(上海)　「生活者の移住の現状と将来に関する調査」2022年)

これからの中国生活者の都市間移住は、これまでの西から東、小都市から大都市へという流れから、むしろ大都市から小都市へという**「逆向化」**が始まりそうです。

沿海部の1級、1.5級都市に向かうだけでなく、魅力が高まっている各地方の都市に人が向かうようになる**「分散化」**の動きも加速するでしょう。

そして暮らす都市の選択は、かつてのように仕事や家族のことを最優先にして消去法的に都市を選ぶのではなく、一人一人が自分の価値観や望む暮らし方に照らして、より多様な選択肢から主体的に暮らす都市を選んでいく、**「積極化」**へと向かうでしょう。

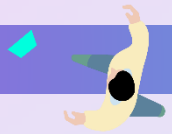
逆向化　**分散化**　**積極化**

次のパートではインタビュー調査の中で出会った移住生活者の事例をもとに、今後増えていくであろう3つの移住生活スタイルについて、そのようなスタイルが広がる背景にある欲求や価値観変化とともに紹介します。

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

新しい都市間移住のスタイルと、その背後にある価値観や欲求の変化

Style 1：独立空間創造型移住

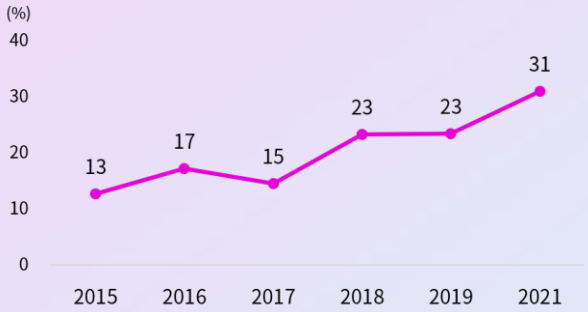


親の仕事のために、あるいは子どものより良い教育環境を求めて都市間移住をする家族は多いでしょう。移住するとしても家族そろって移動し、なるべく一緒に暮らすというのがこれまでのスタイルです。
また、親が大都市に出稼ぎに出て、地元に子どもが残るという暮らし方もありました。

けれども今回調査で見えてきたのは、収入確保のためにやむを得ず別居しているという家族ではなく、夫婦がそれぞれの仕事、趣味を大切にしていて、それぞれの独立した空間を求めたために離れて暮らしているという家族でした。

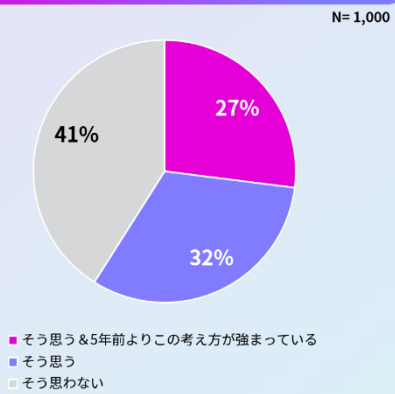
博報堂グループが実施している「グローバル生活定点調査（中国）」を見ると、ストレスの原因に家庭内の人間関係を挙げる人は増え続けています（図表6）。そして今回私たちが実施した調査でも「夫婦それぞれが別の都市/場所で暮らしていてもかまわない」と考える人が6割近くに達しています（図表7）。

図表6　ストレスの原因 ー家庭内の人間関係



(博報堂グループ　「グローバル生活定点調査（中国）」)

図表７　夫婦が別々の都市や別々の居所で暮らしても構わない

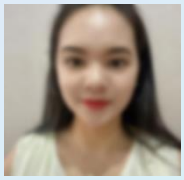


(博報堂生活綜研(上海)　「価値観/生活スタイル調査」2022)

「家族のために自分を犠牲にするのではなく、**家族ができても自分のキャリアや自由な時間・空間を大切にしたい**」という欲求の拡大。その結果、収入面で特に問題がなくても、互いの独立した空間を求めて、夫婦がそれぞれ別の都市で暮らす、低価格で広い家を購入でき、それぞれの部屋を持つことが可能になる地方都市に移るといった、**「独立空間創造型移住」**が出てきているのです。

＜独立空間創造型移住の登場背景にある欲求変化＞
家族のために自分を犠牲にするのではなく、
家族ができても自分のキャリアや自由な時間・空間を大切にしたい

独立空間創造型移住生活者事例：Lさん　（32歳女性/既婚子有/咸陽市在住）



あちこち旅した中で気に入っていた咸陽で、宝石鑑定師の仕事を見つけて定住。夫と出会って結婚し、一度は夫が住む西安で暮らすも、仕事を優先して咸陽に戻る。その後出産をするも、子どもは夫の元に預けて自身は一人暮らしを継続。育児ストレスがなく、登山など自分の趣味の時間も楽しめる分、家族と西安で会う時は優しく接することができる。
「**距離が家族の美しい関係に繋がっている**」と認識。

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

Style 2 :相対的生活品質追求型移住

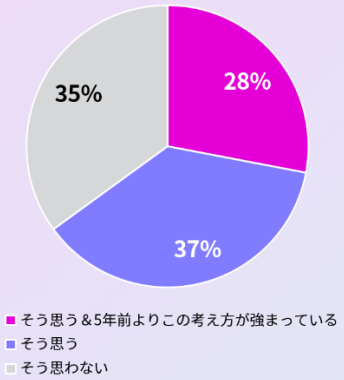
これまで、お金を稼いだり、より良い暮らしをしたりするために移住する場所と言えば大都市でした。

ところが、調査をしていくと、あえて地方の小都市に行くことで、仕事も順調、生活品質も良くなったと語る生活者が頻繁に現れました。実際に定量調査結果を見てみると、大都市から小都市に移住した人の方が生活品質や職場の環境への満足度が高いという結果も出ています。

地方の小都市に行くと、確かに大都市にいた時より、収入の絶対的な金額は低下してしまうことも多いでしょう。しかしその一方で、不動産価格も物価も地方の方が安いため、可処分所得自体は増えるケースが多いようです。
「大都市の激烈な競争を避けるためなら、収入が下がっても小都市に移住することも問題ない」という意見に65%の人が賛同しています（図表8）。そして、「大都市と小都市の生活満足度の差が縮まっていく」という意見には8割もの人が同意しています（図表9）。

図表8 大都市での激しい競争を避けるために、給与が下がっても競争が激しくない都市に行きたい

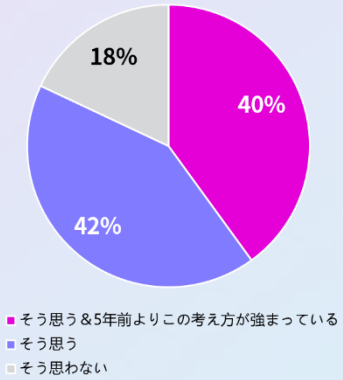
N= 1,000



(博報堂生活綜研(上海)　「価値観/生活スタイル調査2022」)

図表9 大都市と小都市の生活満足度の差が縮まっていく

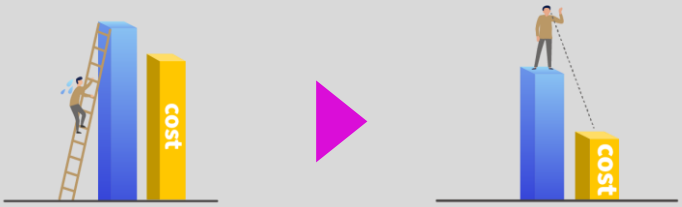
N= 1,000



(博報堂生活綜研(上海)　「価値観/生活スタイル調査2022」)

厳しい競争に巻き込まれ疲弊するよりも、**「投入するエネルギーに対して、得られるリターンを最大化したい」**という欲求は今後も広がっていくでしょう。収入が多少減っても働きやすく、生活コストが抑えられて、投入するエネルギーに対して高い生活品質が得られる都市に移住していく**「相対的生活品質追求型移住」**という選択が、ますます魅力的になっていくはずです。

＜相対的生活品質追求型移住の登場背景にある欲求変化＞
絶対的な所得やステイタスの高さを追求せず、
投入するエネルギーに対して得られるリターンを最大化したい



相対的生活品質追求型移住生活者事例：Yさん　（48歳男性/既婚子有/撫順市在住）

重慶、ジャムス、北京と仕事を求めて転々。友人からの仕事の紹介で北京に行って、仕事の機会には恵まれたが、家賃や生活費、人との交流にお金がかかりすぎ貯金が尽きる。そこで一転、ある程度インフラが整っていて不動産価格も安い地方都市に移住。撫順市に来てみると、生活リズムがゆったりしているから、仕事とオフの切り替えがしやすい。「**仕事も過去の大都市での経験を活かして取り組みやすいし、家もクルマも買えたし、“人生勝ち組”**という感じがしている」と語る。

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

Style 3 :最適生活リズム選択型移住

調査の中で、複数の都市を転々とする若者や、多拠点生活を始めた中高年の生活者にも出会いました。

以前から、都市から都市へと転々としている若者はいたと思いますが、その多くは仕事の機会を求めて大都市を回っていたり、定住したくなる街を探しているような動き方でした。

しかし今回の調査で出会った若者には、大都市でのハイペースなリズムの刺激的な生活と、地方都市でのスローペースでリラックスした生活を交互に味わおうとしている人が見られました。生活リズムを切り替え、様々な生活を味わうために高頻度で都市間移住をしているのです。

上海と成都のに拠点生活をする65歳女性。上海では娘や夫の世話などに追われ慌ただしい生活になるが、成都では友人とゆったり趣味を楽しむ。

また中高年の多拠点生活というと、一部の高所得者が、環境の良い田舎に広々とした別荘を持つようなイメージを持たれるかもしれません。

けれども最近ではそこまでの高所得層でなくとも、地方都市にささやかな部屋を持ち、大都会では味わいにくいゆったりした生活リズム、心地よい気候の中で暮らしたいと考え、実行に移す人たちが出てきています。

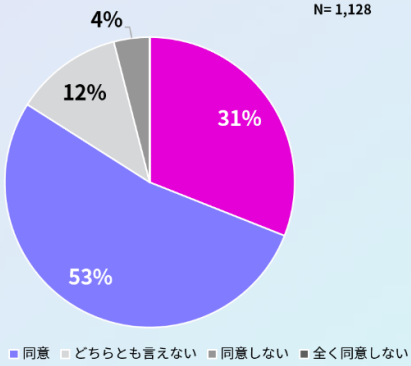
若者、中高年に限らず、「生活リズムが早すぎて疲れる」という意識は生活者の間に広がっています。「移住することで生活のリズムを調整したい」という意見に賛同する人が8割を超える状況です（図表10）。

今後も便利で先端的だが慌ただしい大都市の生活だけでなく、地方の小都市のゆったりした生活、豊かな自然に触れる生活も享受したいという考え方は広がっていき、それを実践に移しやすい環境が整っていきます。

その時々の自分に最適な生活リズムで生活を送りたいという欲求を背景に、「**最適生活リズム選択型移住**」を志向する生活者はますます増えていくでしょう。

図表10

別の都市への移住を通じて生活リズムを調整してみたい



(博報堂生活綜研(上海)　「生活者の移住の現状と将来に関する調査」2022年)

＜最適生活リズム選択型移住の登場背景にある欲求変化＞

比較的自分に合っている単一の生活に安住せず、

その時々の自分に最適な生活リズムで生活を送りたい

最適生活リズム選択型移住生活者事例：Hさん　（26歳女性/未婚/上海市在住）

山東省の淄博で生まれてから、青島、大連、深圳と次第に都会に移った後に、再び山東省の気候が穏やかな都市烟台に戻る。その後北京で仕事に打ち込み、調査期間中にさらに刺激を求めて上海に転じた。地方都市では広い部屋を借りて自炊をし、大都市では流行りのスケボーに打ち込んだり、話題のカフェを巡ったり。

「移住はある程度心身にストレスがかかるけれど、**長い目で見たら、自分の能力や人生経験を蓄積できていてプラスだ**」と語る。

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

未来は、「応域」生活から「運域」生活へ

これまで、多くの生活者はいくつかの限られた大都市に移住するか、地元に残るかといった限定的な選択肢から暮らし方を選択していました。

選択したその環境（域）に自分を適応させていく必要があり、時には自分の個性を抑えたり、不慣れな習慣や不得意なスキルを身に付けたり、自分を変える必要もありました。

私たちはこのような生活を、**環境（域）に適応していく「応域」生活**と呼ぶことにしました。

これに対して、調査の中で出会った先端的な移住行動をとっている生活者や、定量調査の中で見えた新たな価値観、都市選択に対する考え方を鑑みると、**環境（域）をより主体的に運用（活用）していこうとする、「運域」と呼べるような動きが出てきている**と言えそうです。

地方都市のインフラが整備され、医療や介護、教育施設が各地で充実していく、働き方が多様化するといった社会変化によって、暮らす都市の選択肢は増加していきます。その社会環境に、

- 「家族のために自分を犠牲にするのではなく、
  家族ができても自分のキャリアや自由な時間・空間を大切にしたい」
- 「絶対的な所得やステイタスの高さを追求せず、
  投入するエネルギーに対して得られるリターンを最大化したい」
- 「比較的自分に合っている単一の生活に安住せず、
  その時々の自分に最適な生活リズムで生活を送りたい」

といった新たな価値観、欲求を持つ生活者が向き合っていくことになります。

これからの時代は、**一つの環境（域）に無理をして適応しようとする「応域」生活者が減り、環境（域）をより主体的に運用しようとする「運域」を志向する生活者が増えていくことになる**でしょう。

これまで

応域

周囲の環境(域)に適応し、社会一般によいとされている生活スタイルに合わせて（応じて）生きようとする

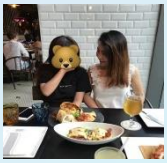
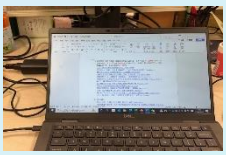
これから

運域

自分に合った生活スタイルを手にするために、周辺環境(域)を上手に運用する

今回の研究の中で出会った最も先端的運域生活者事例：Fさん（30歳女性/既婚子なし/日照市在住）

北京出身で海外留学後、上海で就職。大都市での生活は刺激的だったが心身ともに疲れて、旅行で訪れた海沿いの街日照市に移住を決意。留学時や上海での仕事の経験を活かしてウエディング関連の事業を起こした。
その後、日照で北京出身の男性と出会い結婚。北京で働く夫とは別居状態だが、その生活の様子を監視カメラで見守っている！　時々北京に出かけ、人気のレストランを訪れたり、展覧会を見たりもする。普段日照で過ごす時は、ほとんどすっぴんで犬の散歩や市場の散策に出かける。「**上海にいた時は周りの目ばかり気にするサーカスの猿みたいだったが、今は自由に自分のペースで生きる猫のような生活**だ。」と語る。

仕事に追われ、流行を追いかけていた上海時代

自分らしくのびのび暮らせている日照での現在

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023

皆さんの周りにも、以前と比べて「応域」という考え方よりも「運域」に近い考え方で
暮らす場所の選択を始めている友人・知人がいらっしゃるのではないでしょうか？

インフラの充実、各地の医療/介護の拡充、働き方、家族観や成功観の変化などにより、
環境（域）をより主体的に運用しようとする「運域」生活者が増えていく、少し先の未来。

皆さんの顧客である生活者は、どこで、どのような暮らしを始めていそうでしょうか？
その時、皆さんのビジネスには、どんな変化が求められそうですか？

そして、皆さんご自身は、10年後、どこで、どんな暮らしをしているでしょうか？
本研究が、少し先の未来について、思いをはせるきっかけとなれば幸いです。

運域

有料版フルレポート/説明プレゼンテーションのご案内

博報堂生活綜研(上海)　動察2022「運域」の簡易版レポートをご覧頂き誠にありがとうございます。

本簡易版レポートでは掲載しきれていない博報堂生活綜研（上海）の独自調査データ、Style1－3の先端的移住生活者の具体的な発言内容や提供写真、研究結果から考察される今後のマーケティング活動への示唆、および研究にご協力頂いた有識者の皆様のコメントや第一財経新一線都市研究所ご提供のデータなどを豊富に盛り込んだ有料版フルレポート（販売価格2万元、電子書籍版）もご用意しております。

また本研究内容の説明プレゼンテーションの開催も承っております。
皆様のマーケティング活動、中国市場/生活者理解にお役立て頂ければ幸いです。

有料版フルレポート/説明プレゼンテーションに関するお問い合わせはこちら
news@hakuhodo-shzy.cn

博報堂生活綜研（上海）について

株式会社博報堂の独資子会社として2012 年に上海に設立された、中国の博報堂グループのシンクタンク。日本で蓄積してきた生活者研究のノウハウを生かし、中国における企業のマーケティング活動をサポートすると同時に、これからの中国の暮らしのあり方を、中国現地で洞察・提言する活動を行っています。

現在の主要業務は、以下の通りです：
・生活者の本質的な欲求を洞察し、新しい暮らしのあり方を提言する「生活者動察」
・生活者やマーケットの新しい見方を提示する「新視点提案」
・生活者発想を基盤とした企業のマーケティング活動に対する「コンサルティング、提言」

Wechat公式アカウント:HAKUHODO_SHZY

©HAKUHODO Institute of Life and Living Shanghai 2023